

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo FESTIVALの一環として本展を実施します。



東京都現代美術館

MOT アニュアル2019 Echo after Echo: 仮の声、新しい影 MOT Annual 2019 Echo after Echo: Summoned voices, new shadows

2019年11月16日(土) - 2020年2月16日(日)

展覧会概要

現代の表現の一側面を切り取り、問いかけや議論の始まりを引き出すグループ展、MOT アニュアル※。15回目を数える本展では、イメージ、言語、歴史、素材など、すでにある世界と交感しつつ表現を紡ぐ作家たちとともに、「なぜ人は作るのか」という根源的な問いに向き合います。

コピー、ダビング、コラージュ、トレース、サンプリング、書写——。この展覧会で作家たちが用いる技術は、世界の残響（エコー）を聴きながら、それらを増幅させることに向けられています。新しい影を作るようなその営みによって、彼らは、自分ではないものや、ここにはない存在——他者——と共振し、時にその替わりとなり時に摩擦を起こしながら、多くの声が響き渡る空間を生み出していきます。手を動かすこと、作ることから、「私」という限定的な存在を乗り越えていく作家たちの実践は、膨大な情報と物質に取り巻かれた私たちの生や社会を映し出しつつ、解放のための多くの示唆を与えてくれるはずです。

※ MOT アニュアルは、1999年の第1回展以来、異なる文化や表現領域が混合する空間としての東京に拠点を置く東京都現代美術館ならではの視点から、日本の若手作家の作品を中心に、現代美術の一側面を切り取り、問いかけや議論のはじまりを引き出すグループ展です。

出展作家

THE COPY TRAVELERS、PUGMENT、三宅砂織、吉増剛造プロジェクト | KOMAKUS+ 鈴木余位、鈴木ヒラク

展覧会のみどころ

— 多彩なジャンルから読み解く表現の最前線

ファッション、詩、写真、映像、音響、コラージュ、ペインティング、ドローイングといった多彩な手段を、すでにある世界との応答の技術として組み立て直し、現代の表現の最前線を提示する展覧会です。新進気鋭のファッション・レーベル PUGMENT から日本を代表する詩人である吉増剛造まで、世代を超えて「作る」ことの根源的な意味に迫ります。

— 情報化社会における創造性の分析

コピー、サンプリング、コラージュなど、情報のネットワークの中で暮らす私たちに親しい手法を入口に、現代の文化における創造性や、革新性とは何か、その一端を解きほぐすヒントに満ちた展覧会です。

— 表現の生まれる瞬間に迫る、多彩な関連イベント

ファッション・ショーから音楽、朗読、ドローイングやダンスを交えた実験的なパフォーマンスまで、ユニークで多彩な関連イベントによって、表現の生まれる瞬間に多角的に迫ります。吉増剛造 × 空間現代、鈴木ヒラク × 鈴木昭男といった、異なる世代ながらこれまで継続的なコラボレーションを行ってきた組み合わせの、進化し続ける試みもお楽しみください。

— 展覧会テーマに合わせて練り上げられた、新作を中心とする展示

東京および代々木公園という空間の歴史をモチーフに、2020年春夏コレクションと連動した作品を発表する PUGMENT、古今東西の文化や現象の中に隠された線の「発掘」をテーマにドローイングの可能性を押しひろげる鈴木ヒラク、未曾有の震災以降の「詩」のありようを、過去からの声に突き動かされるようにして問い続ける吉増剛造など、作家たちの現在が記し付けられた新作を中心にご覧いただけます。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>



作家プロフィール

THE COPY TRAVELERS (加納 俊輔 / 迫 鉄平 / 上田 良)

京都を拠点として活動する美術家、加納俊輔(1983年大阪府生まれ)、迫鉄平(1988年大阪府生まれ)、上田良(1989年大阪府生まれ)が協働したユニット。「複製」や「コラージュ」という手法の可能性について、コピー機やスキャナ、カメラなどのツールを用いて、日々実験に勤しんでいる。

[主な個展]

- 2019 「雲型定規がヤマをはる」 Sprout Curation / 東京
「THE COPY TRAVELERS の A 室」 ギャラリー 16 / 京都
- 2018 「The Scrap 2018」 Culture Station Seoul 284 / ソウル、韓国
- 2017 「ポスト・リビングルーム | POST LIVING ROOM」 渋谷ヒカリエ 8 階 8 / CUBE 1, 2, 3 / 東京
「あの日のコピササイズ」 MSC ギャラリー同志社女子大学京田辺キャンパス / 京都
- 2016 「水に浮かんだフォーシーム」 eN arts / 京都
「ストーブリーグ 2016」 Division、VOU / 京都
- 2015 「THE COPY TRAVELERS by THE COPY TRAVELERS」 space_inframince / 大阪
「THE COPY TRAVELERS by THE COPY TRAVELERS」 NADiff Gallery / 東京



1. THE COPY TRAVELERS 《机上の空間／イメージボール》
2018 Photo: Gim Ikhyun



2. THE COPY TRAVELERS 「THE COPY TRAVELERS の A 室」
2019 展示風景 Galerie16 / 京都

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

PUGMENT

2014年に東京で創設されたファッション・レーベル。人間の営みにおいて衣服の価値や意味が変容していくプロセスを観察し、その制作工程に組み込む。ファッションにまつわるイメージと人との関係性に着目し、既にある価値・環境・情報について別の視点を持つための衣服を発表する。

[主な展覧会]

個展

- 2019 「Fall 2019 We People Work, People」 / NADiff a/p/a/r/t / 東京
- 2018 「Spring 2019」 KAYOKOYUKI / 東京
- 2018 「Fall 2018 1XXX-2018-2XXX」 / KAYOKOYUKI、Utrecht、N id / n id a deux / 東京
- 2017 「Spring 2018 -window installation」 Lamp harajuku / Tokyo
- 2016 「IMAGE」 CIY / 岩手
- 2015 「Don't forget that entities exist only for a change」 CIY / 岩手
- 2014 「The Right Clothing」 grill gallery / Tokyo
- 2014 「MAGNETIC DRESS」 NO.12 GALLERY / 東京

グループ展

- 2019 「MAGNETIC DRESS, Curated by TOKYO ART BOOK FAIR Ginza Edition」
Ginza Sony Park / 東京
- 2018 「here and there's garden」 千鳥文化 / 大阪
- 2017 「新しいループ・ゴールドバーグ・マシーン」 (飯岡陸キュレーション) KAYOKOYUKI、
駒込倉庫 / 東京
- 2015 「鉄道芸術祭 vol.5 ホンマタカシプロデュース もうひとつの電車～ alternative train～」
(ホンマタカシキュレーション)、アートエリア B1 / 大阪
- 2015 「THE EXPOSED #09 Passing pictures」 (飯岡陸キュレーション)、G/P + g3 gallery / 東京



3. PUGMENT
「Fall 2018 1XXX-2018-2XXX」
Photo: Harumi Obama



4. PUGMENT
「Fall 2018 1XXX-2018-2XXX」
Photo: Arata Mino



5. PUGMENT 《MAGNETIC DRESS》
2014

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤
TEL: 03-5245-1134 (直通) / FAX: 03-5245-1141
E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

三宅砂織

1975年、岐阜県生まれ。2003年ごろより、透明なフィルムに陰陽反転したドローイングを描き、印画紙に現像する「フォトグラム」の制作を開始。膨大な量のイメージが氾濫する現代においてもあえてイメージを見るという営為に重きを置き、人々の眼差しに時代を超えて内在する「絵画的な像」を多声的に抽出するという試みを展開している。

[主な展覧会]

個展

- 2019 「庭園 | POTSDAM」SPACE TGC / 東京
- 2018 「THE MISSING SHADE 3」WAITINGROOM / 東京
- 2017 「THE MISSING SHADE 2」SAI GALLERY / 大阪
- 2015 「THE MISSING SHADE」FUKUGAN GALLERY / 大阪
- 2011 「realities or artifacts」ギャラリーノマル / 大阪

グループ展

- 2018 「第20回 DOMANI・明日展」国立新美術館 企画展示室 2E / 東京
- 2017 「ArtMeets04 田幡浩一 / 三宅砂織」アーツ前橋・ギャラリー1 / 群馬
- 2013 「秘密の湖～浜口陽三・池内晶子・福田尚代・三宅砂織～」
ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション / 東京
- 2012 「キュレーターからのメッセージ2012 現代絵画のいま」兵庫県立美術館 / 兵庫
- 2012 自主企画展「アブストラと12人の芸術家」大同倉庫 / 京都



6. 三宅砂織 《Garden (Potsdam)》2019
[映像部分]



7. 三宅砂織
《The missing shade 32-1》
2017



8. 三宅砂織
《The missing shade 52-1》
2019

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤
TEL: 03-5245-1134 (直通) / FAX: 03-5245-1141
E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

吉増剛造プロジェクト | KOMAKUS + 鈴木余位

詩人・吉増剛造の日々の捉えがたい表現活動を記録・共有する目的で、吉増と映像作家・鈴木余位、音響チーム・KOMAKUS が協働するプロジェクト。「MOT サテライト 2017 春 往来往来」「札幌国際芸術祭 2017」での作品発表や、「剛造 Organic Fukubukuro Orchestra」名義でのパフォーマンス活動を行う。

一 吉増剛造

1939年東京都生まれ。1964年に『出発』でデビューして以来、日本を代表する詩人として、現代詩の最先端を疾走し続けている。主な詩集に『黄金詩篇』（1970年）、『オシリス、石ノ神』（1984年）、『花火の家の入り口で』（1995年）、『「雪の島」あるいは「エミリーの幽霊』』（1998年）、『怪物君』（2016年）など多数。2015年、日本芸術院賞・恩賜賞、日本芸術院会員。2006年から映像作品「gozo Ciné」を発表する。朗読パフォーマンスの先駆者としても知られ、1960年代から現在まで、国内外で精力的に行っている。

[主な展覧会]

個展

- 2017-18 「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」足利美術館、渋谷区立松涛美術館ほか
- 2016 「声ノマ全身詩人、吉増剛造展」国立近代美術館／東京
- 2008 「詩の黄金の庭 吉増剛造」北海道立文学館／北海道
- 1998 「水邊の言語オブジェ 吉増剛造 - 詩とオブジェと写真 -」斎藤記念川口現代美術館／埼玉
- 1994 「石狩河口／座ル」テンポラリースペース／北海道
- 1990 「アファンルパルへ」ギャラリーリヴェリタ／東京

グループ展

- 2019 「REBORN ART FESTIVAL 2019」詩人の家／宮城
- 2017 「MOT サテライト 2017 春 往来往来」東京都現代美術館／東京
「札幌国際芸術祭 2017 火ノ刺繍 - 『石狩シーツ』の先へ」北海道大学博物館／札幌
- 2002 「融点・詩と彫刻による」うらわ美術館／埼玉

一 KOMAKUS

「重力の束縛から魂を解放する」ことを目的として活動。手段として、マルチチャンネル音響設計、音源制作、オリジナル・サウンドシステム開発を専門とし、商業施設から、コンサート、ライブ、演劇、美術の分野では鈴木昭男、吉増剛造、刀根康尚らの作品の音響設計を手がけるなど、音響環境の深化に取り組んでいるチーム、WHITELIGHT から派生。2019年からKOMAKUS名義で活動を開始、脱中心的な音響空間の創造を各地に仕掛ける。

[主な展覧会]

- 2016 「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2016」東北芸術工科大学／山形

一 鈴木余位

栃木県生まれ。個人映画から劇映画まで役職、在処を問わずに映像作家として活動する。映画、美術、文学などを形而上下に横断し、各ジャンルの作家たちの協働も数多。近年は自身の表現の出自である詩と、映画の交感の坩堝へと歩きはじめている。

[主な展覧会]

- 2018 「ふたたび、花、傍に」テンポラリースペース／北海道
- 2013 「イメージフォーラムフェスティバル 2013」東京
- 2013 「クリチバ映画祭 2013 クリチバ」
- 2011 「第35回香港国際映画祭」香港
- 2011 「KINEMA NIPPON Nippon Re-Read: I & II」ロスアンゼルスほか

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤
TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141
E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>



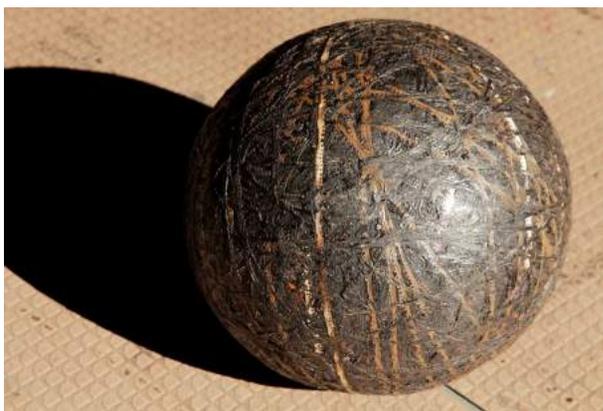
9. 吉増剛造プロジェクト
「MOT サテライト 2017 春 往來往來」2017
展示風景 Photo: Haruyuki Shirai



10. 吉増剛造プロジェクト《石狩の時間の皺皺皺皺……》2017
[映像部分]



11. KOMAKUS 「Dead End RUN Remix LIVE」2003 展示風景 横浜赤レンガ倉庫



12. 鈴木余位《フィルム石》2013

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

MOT+
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO
東京都現代美術館

鈴木ヒラク

1978年生まれ。アーティスト。2001年に武蔵野美術大学造形学部映像学科を卒業、2008年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了後、シドニー、サンパウロ、ロンドン、ニューヨーク、ベルリンなどの各地で滞在制作を行う。一貫してドローイングと言語との関係性を主題に、平面・彫刻・映像・写真・パフォーマンスなどと突き合わせつつ、その概念を拡張するような制作活動を展開している。

2016年よりドローイングの新しい実践と研究のためのプラットフォーム『Drawing Tube』を主宰。2017年 FID Prize ドローイングコンテスト（パリ）でグランプリを受賞。

[主な展覧会]

個展

2019 「Excavating Reflections」 Galerie Chantier Boite Noir / モンペリエ、フランス

2018 「The Writing of Meteors」 EACH MODERN / 台北
「交通」 ART FRONT GALLERY / 東京

2015 「あなたの記号」 国際芸術センター青森 / 青森

2013 「Excavated Reverberation」 大和日英基金 / ロンドン

2011 「Glyphs of the Light」 WIMBLEDON space / ロンドン

2008 「NEW CAVE」 トーキョーワンダーサイト渋谷 / 東京

2006 「dig」 Galerie du Jour Agnes b. / パリ

グループ展

2019 「BOOM」 MO.CO. Panacée / モンペリエ、フランス

「アートみやぎ」 宮城県美術館 / 宮城

2018 「ヒツクリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所」 アーツ前橋 / 群馬

2016 「Very Addictive」 銀川現代美術館 / 銀川、中国

「5×3」 クンストラウム・デュッセルドルフ / デュッセルドルフ、ドイツ

「バンクーバー・ビエンナーレ」 / バンクーバー、カナダ

2015 「THINK TANK Lab Triennale」 ヴロツワフ建築美術館 / ヴロツワフ、ポーランド

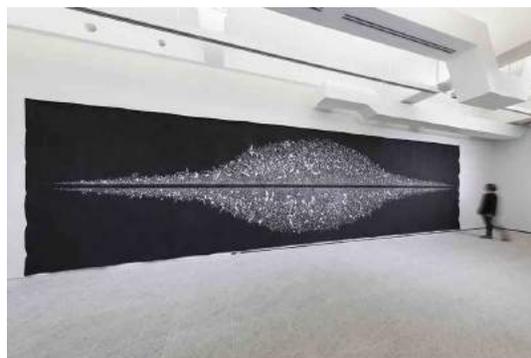
2013 「日産アートアワード 2013」 / BankART Studio NYK / 神奈川

「DRAWING NOW PARIS」 Carrousel du Louvre / パリ

2012 「ソネリユミエール、そして叡智」 金沢 21 世紀美術館 / 石川

2010 「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」 森美術館 / 東京

2009 「Between Site & Space」 Artspace Sydney / シドニー



13. 鈴木ヒラク
「ヒツクリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所」
2017 展示風景 アーツ前橋 / 群馬



14. 鈴木ヒラク 《点が線の夢を見る》2017 大分 /
[パブリックアート] Photo: Takashi Kubo

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134 (直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

MOT+
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO
東京都現代美術館

関連プログラム ※都合により日時を変更した箇所がございます。(2019年9月11日)

一 アーティスト・トーク

~~第一部 THE COPY TRAVELERS × 三宅砂織~~

~~第三部 吉増剛造 × 鈴木余位 × 鈴木ヒラク~~ ※第二部は下記の通り、12月8日(日)に変更になりました。

日時：11月17日(日)

~~第一部 13:00-14:30 第三部 15:00-16:30~~ ※日時が変更になりましたのでご注意ください。

吉増剛造 × 鈴木余位 × 鈴木ヒラク

日時：12月8日(日) 14:00-15:30 ※日時が変更になりましたのでご注意ください。

PUGMENT × 石塚俊 [本展グラフィック担当]

日時：2020年1月19日(日) 14:00-15:30

一 PUGMENT 2020年春夏コレクション

日時：11月17日(日) ~~19:00-~~ 19:30-20:00に変更になりました。

一 パフォーマンス・セッション：吉増剛造 × 空間現代

日時：12月7日(土) ~~18:00-19:00~~ 18:30-19:30に変更になりました。

一 パフォーマンス・セッション：鈴木ヒラク × 鈴木昭男

日時：12月15日(日) 15:00-16:30

一 ドローイング・オーケストラ

参加作家：鈴木ヒラク、大原大次郎、カニエ・ナハ、西野壮平、ハラサオリ、村田峰紀、やんツー、BIEN

日時：2020年2月2日(日) ~~14:00-16:00~~ 15:00-16:30に変更になりました。

※詳細については、東京都現代美術館ウェブサイトにて順次お知らせいたします。

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

図録 | 公式カタログ (刊行 2020年1月初旬予定) デザイン 石塚俊

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134 (直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

展覧会概要

会期	2019年11月16日(土) - 2020年2月16日(日)
休館日	月曜日(2020年1月13日は開館)、2019年12月28日 - 2020年1月1日、1月14日
開館時間	10:00 - 18:00(展示室入場は閉館の30分前まで)
観覧料	一般1,300円(1,040円) / 大学生・専門学校生・65歳以上900円(720円) / 中高生500円(400円) / 小学生以下無料 ※()内は20名様以上の団体料金
会場	東京都現代美術館 企画展示室 地下2階
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
企画担当	事業企画課 企画係 藪前知子



同時開催

企画展「ダムタイプ | アクション+リフレクション」2019年11月16日(土) - 2020年2月16日(日)
観覧料 | 一般1,400円 / 大学生・専門学校生・65歳以上1,000円 / 中高生500円 / 小学生以下無料
※ お得なセット券の販売もあります。

企画展「ミナペルホネン/皆川明 つづく」2019年11月16日(土) - 2020年2月16日(日)
※ 詳細は別途「ミナペルホネン/皆川明 つづく」展のリリースでご案内します。

コレクション展「リニューアル・オープン記念展 MOTコレクション第3期 いま—かつて 複数のパースペクティブ」
2019年11月16日(土) - 2020年2月16日(日)
観覧料 | 一般500円 / 大学生・専門学校生400円 / 高校生・65歳以上250円 / 中学生以下無料
※ 企画展のチケットでコレクション展もご覧いただけます。

広報用画像として本リリースに掲載している写真をご用意しております。
ご希望の際はキャプションについている番号を、広報までお知らせください。

お問い合わせ
東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤
TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141
E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

